

中大生の旅するチカラ



◇ 新入生を迎える旅 ◇

旅の持つチカラ

新入生を迎える旅で磁力を分かっ

春は出会いと別れの季節である。そして、新生活のスタートを旅路の始まりになぞり、「旅立ちの春」と人はいう。まずは新入生の皆さん、ご入学おめでとう。春爛漫のこのときを、さまざまな想いでお迎えのことだろう。

すでに在籍する上級生たちは、かつての自分を振り返り、成長を実感する時季でもある。若葉眩しい新緑のころ、関東近県の宿泊施設で、新入生歓迎の合宿を予定しているのではあるまいか。

新入生歓迎合宿は、気もそぞろな旅である。

第一志望ではないのに、屈して入学の日を迎え

たフレッツシャーズもいるだろう。一年が経ち、それが杞憂であったことに気づいた者もいるかもしれない。社会人としての自分を視野に入れ始めた、先輩格の姿もみられる。さまざまな想いを抱いた者たちの、始点となる旅なのだ。

はるか四半世紀も前のことだが、新宿駅西口に集合して河口湖行きの高速バスに乗ったときのことを、今でも鮮明に思い出す。大学生活の大半をテニスサークルで謳歌した筆者だが、あのとときの新しい世界に飛び込んだ一瞬が、子どもから大人への境だった気がする。旅を生業に、やがて現在の職業に就いた我が人生の原点があったように感じる。

旅には、さまざまな効果があるといわれる。生



千葉 千枝子

Chiba Chieko

■ちば ちえこ 旅行作家。東京成徳短大観光学講師。1988年中央大学経済学部卒、富士銀行入行。シティバンクを経てJTBに入社。96年有限会社設立。運輸・観光全般の執筆、講演活動を行う。All About旅行チャンネル案内役。日本旅行作家協会、日本観光研究学会等所属。著書に「JTB旅をみがく現場力」(東洋経済新報社)など。

まれ育ちが違う者同士が、わずか数泊、寝食を共にするだけで互いの距離はグッと縮まる。何の気なしに参加した新入生歓迎合宿で、生涯の伴侶となる男性に出会ったという女子学生もいる。惜年のライバルとなる後輩や同志を迎えることもある。自身もまた、今の仕事が天職と悟るには幾歳月を費やした。旅には、人と人、個人と社会を結びつける磁力の効果がある。

人生の道半ばにならないと、気がつかないことも多い。人生という旅は長く、起伏に富んだものである。だからこそ、袖振り合ったこの縁を、どうか大切に育んでほしい。新世界は不安も多いが、まずは飛び込んでみるのだ。同じ釜の飯を食べてみよう。旅の持つチカラを、きつと最大限に分



筆者大学2年生の春合宿は陽光の千葉・白子で

かつことができるだろう。

春つらら、気の緩みに注意 指揮者となる旅のリーダーを

大学入りたてのことである。サークル内で一つの事件があった。男子上級生が運転する車が交通事故を起こしたのだ。フロントガラスは大破し、助手席に同乗した新一年の女子学生が顔に無数の傷を負った。幸い命に別状はなかったものの、若いお嬢さんが東京で一人暮らしを始めたばかりの悲しい出来事に、田舎のご両親も心を痛めた。

春の遠出で気をつけたいのが、気の緩みだ。車の運転はもちろん、酒の席にも節度をもって臨まねばならない。携帯電話があるからと言わず、親や友人に行く先を告げておく。そして健康保険証を必ず携帯するようにしたい。自己責任の時代にあつて、自分の身を自分で守る最低限のルールである。

また、グループの旅にはリーダーが求められる。宿や交通機関の予約手配と精算、



旅の仕事の夢を叶えて25歳で銀行から転職

旅程の管理、部員・団員の健康にも配慮しなくてはならない。旅先では上級生が後輩に気を配り、無事故を心がける。こうした旅行リーダーの仕事は、まさに旅行会社の添乗員と同じである。

添乗員が「ツアーコンダクター」と呼ばれる所以は、旅行の「指揮者」に相当するからだ。合宿や遠征などグループで旅をするのであれば、指揮棒を振ってくれるリーダー役が必要だ。部長や副部長が担うのかもしれないし、あえて別に旅行リーダーを任命することもあるだろう。そこで筆者が旅行会社勤務時代、添乗業務で先輩社員から受け継いだ「添乗員の基本的要件」と、「旅行者



カナダ・アラバマ氷河で添乗員として随行した筆者（最右手）

心理」を参考までに紹介する。

ベテランと呼ばれる添乗員は数多けれど、「自分にしっかりとした哲学があれば、添乗回数など問題ではない（日本交通公社発行「海外旅行添乗員手帳」より抜粋）」との言葉の通り、旅のリーダーの資質には(1)思いやりの精神、(2)豊かな人間性、(3)心身の健康、(4)リーダーシップ、(5)判断力・処理能力、そして豊富な知識と語学力が求められる。ガイドブック的な知識や語学力は学生旅行には不問だが、その他の基本的要件については旅行リーダー選出のガイドラインになるだろう。

旅行者の心理を把握する

それでリーダーも成長

また、旅行者の心理を把握することで事故やトラブルを未然に防ぐことができる。くだんの添乗員手帳に綴られた「旅行者心理」は大きく六つあ



気が緩む春の旅には安全面を考えて、公共機関を利用（箱根登山鉄道）

り、リーダーの動きにも役立つ。

第一に、「開放感と思考能力（の減退）」がある。リーダーは重要な事から口頭で伝え、注意を喚起せねばならない。次いで、「好奇心と不安感」がある。両者は背中合わせだから、リーダーは的確な情報の提供で旅行者の不安感を事前に払拭してあげることが重要だ。第三に、「個性の拡大と性格の露呈」を掲げている。旅先では誰もが本性を出す。リーダーには、それを包容する寛大な心や忍耐力も求められる。

学生旅行で一番気をつけたいのが、「群集心理」

である。悪しき行いに付和雷同せず、よい方向へ導く手立てを講じてほしい。次いで「優越感と劣等感」が挙げられる。地域の格差、学生身分と社

会人の違い、経済力の強弱等々、旅先であらためて思い知らされることも多かるう。これら摩擦を避けるための工夫も必要だ。最後に、「能力の低下」がある。旅には癒しの効果があるという実証実験（国交省）も進められる今日だが、それでも肉体的、精神的な疲労感を伴うのが旅である。そこでリーダーは、旅行者全員の疲労を除去するよう睡眠時間の確保に努め、コースを配慮する必要がある。

新入生歓迎の旅は、利用する宿やコース、実施時期などを、代々の慣例に従う団体が多いのではなからうか。伝統を受け継ぐこともまた、重要なことである。房総や湘南、伊豆箱根、群馬・栃木の北関東などを目的地に、休憩時間も含めて首都圏から車で二時間圏内を目安にするのが一般的だ。気温の変化も著しい季節だから、先輩は率先して服装や持ち物のアドバイスをしあげるとよいだろう。

旅程の管理をしつかりと旅の成否は上級生次第

公共交通機関や貸切バス、自家用車を利用するなど移動スタイルも多岐に渡る。ハンドルを握る者や団体の責任者、旅行リーダーは、人命を預かっていることを念頭に、休憩をこまめにとり禁煙などのルールを守って旅程を管理することだ。

ほかにも団体旅行保険などの加入を忘れず、リーダーは全体を俯瞰して行動してはならない。点呼をとって人数を常に把握し、休憩箇所や宿を発つ際には忘れ物がないか、（客室等に）破損がないかなどをチェックしなくてはならない。精算を滞りなく行い、決算報告ができるよう領収書などを保管する。貸切バスの運転手や宿の仲居などお世話になった人たちに心付けを渡せるよう、若干の予算も見込んでおくことよい。簡易救急箱を携行し、近隣にある病院施設などの電話番号を予め控えておけば安心だ。部員・団員の留守宅連絡網を用意して、万一に備えておくことも重要である。

鬼怒川のライン下りは新緑の季節がおすすめ



こうした気配り・目配りは、必ずや社会

「はじめが肝心」というように、大学生生活スタートの旅を成功させるのも、新入生を導く上級生次第ということを忘れてはならない。